

**令和6年第1回姫路市議会定例会（未定稿）**

**令和6年2月29日（木）**

○嶋谷秀樹議員（登壇）

姫路無所属の会、嶋谷秀樹でございます。

冒頭に、元日に発生した能登半島地震により亡くなられた皆様には心からお悔やみを申し上げますとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。

それでは通告に基づき質問いたします。

1 問目、令和8年、2026年10月開業予定の手柄山スポーツ施設整備運営事業について、4項目8点質問いたします。

姫路で生まれ育った誰しものが、真夏の記憶として鮮明に思い浮かぶ、あの在りし日の姫路市民プール。

その跡地に、運営費を含み約350億円の予算をかけ、県下有数の総合スポーツ施設の建設が目下着々と進んでおります。

私事ではありますが、水泳指導者として30代には欧米各国の大会へ代表コーチとして帯同し、また国体の強化育成事業には兵庫県の強化担当として30年近く携わり、コーチ・監督の立場で、本施設と同規模の都道府県各地の国体会場で戦ってまいりました。

他都市にも劣らない本施設の完成後、開催が計画されるであろう50メートル屋内競技用プールでの全国規模の大会はもとより、新体育館のメインアリーナで行われるバレーボールやバスケットボールのプロリーグを中心に、本施設から今後どんなドラマが繰り広げられるのか大きな楽しみであります。と同時に、このあまりにも大きい規模の事業を官民連携して市民とともに育てていくのは生半可なことではないのは、想像に難くありません。

そこで1項目め、施設の使命についてのうち、1点目、トップアスリートの育成について質問いたします。

本施設整備基本計画には、トップアスリートの育成という言葉が様々な箇所に見受けられ、本市の並々ならぬアスリート育成への願いがかいま見られます。

ご承知のとおり、どのスポーツもほんの一握りのトップアスリートに育つまでには、持って生まれた身体能力などの個人要因のみならず、指導者との出会い、保護者の日々のサポート、チームメイトや練習場所など環境要因も重要になってきます。

日本スポーツ振興センター（JSC）では、科学的な根拠情報に基づきオーストラリアで提唱されたスポーツとアスリート育成の包括的な枠組み、FTEMを取り入れ、

子どもが土台となる遊びからスポーツに触れ、トップアスリートに至るまでの過程をアスリート育成パスウェイと捉え、成長段階を具体化、近年では同システムを取り入れる競技団体や行政も増えてきました。

さて、本施設が開業された暁には、一般市民がヴィクトリーナやイーグレッツで活躍する、トップアスリートやプロリーグを観る機会も増え、スター選手に憧れ、スポーツを始める子どもたちも増えてくることでしょう。

遊びの中から競い合う楽しみを見つけ、個々のペースで階段を登り、グッドコーチに出会い、保護者やチームに励まされ成長していき、そしていつしか1つの分野でトップになるための1万時間の法則と呼ばれるような長い時間の道のり、過程を経て、幼少期憧れたトップアスリートに自分になっていく。10年や20年の長期スパンをかけ、本施設からそんな好循環が、ストーリーが生まれていく過程を見続けたいものです。

そこで、お伺いいたします。

本市のトップアスリート育成のためへのビジョンをお聞かせください。

また、達成するために必須事項となる、指導者の育成とジュニアアスリートの育成について、併せて見解をお聞かせください。

次に2点目、防災拠点としての役割について質問いたします。

姫路市都市計画マスタープランでは、手柄山中央公園は地域づくりの方針として広域防災拠点、スポーツの拠点に位置づけられ、また、手柄山中央公園整備基本計画の整備方針においても、災害待機要員の宿泊出動機能や物資の集積・配送機能などの防災機能の充実を図る防災拠点、大規模なスポーツ大会を開催できるスポーツの拠点として整備するとされております。

最大震度7を観測した能登半島地震は、発生から2か月近くがたった今なお、依然として二次避難も含めて1万1,000人を超える方々が避難所暮らしを強いられています。

いつ何時、起こるか分からない災害に対し、備えることの大切さに改めて気づかされ、本施設完成後は広域防災拠点としての役割がさらに問われることとなります。

本基本計画には、新体育館のメインアリーナ等について、災害時は屋内物資集積場所にするとともに、屋内プールについては、プール水を生活雑水として利用することが考え

られ、その他、会議室等は、災害対応に従事する人員のための事務スペース等に活用できる汎用性の高い諸室にする必要があると規定されております。

一方、本市指定避難所・指定緊急避難場所リストには、手柄山中央公園は屋外施設収容人員として大手前公園に次ぐ12万5,000人が想定されるものの、片や屋内施設収容人員としては記載がありません。

そこで、お伺いいたします。

手柄山中央公園全体の災害時の指針と、災害対応従事者用としての役割が中心とされる本施設の具体的な計画をお聞かせください。

次に3点目、スポーツと観光の共存について質問いたします。

スポーツ資源とツーリズムを融合する取組はスポーツツーリズムと言われ、既存のスポーツ資源のほかにも、地域資源がスポーツの力で観光資源となる可能性も秘めています。

本基本計画では、本施設の北側にJRの新駅が整備され、中央公園や本施設の新たな玄関口として、多くの来園者、利用者が見込まれ、市内外から各種団体の練習会会場や合宿会場として利用されることも考えられます。また、県内外からの利用者には宿泊を伴う観光事業としての位置づけも期待されております。

そこで、お伺いいたします。

各種競技団体の練習会や合宿等を誘致し、姫路市内への旅行や観光と融合させる取組を行うなど、新たな手柄山スポーツ施設を活用したスポーツツーリズムとしての見解をお聞かせください。

次に2項目目、施設運営についてのうち1点目、ユニバーサルデザインへの取組について質問いたします。

一昨年、姫路市内と東京都内にて、公認プール取得前のプレゼンテーションがあり、私も兵庫県水泳連盟の立場で参加し、利用者や大会運営者としての意見を述べてきました。

本施設整備事業については、経験豊富な設計事務所の提案に多数の識者や関係者のチェックが入り、万全の準備により建設が進んでいることと承知しております。

そこで、お伺いいたします。

危険が予想される箇所、屋外レジャープールをはじめ、キッズルーム等を含む本施設の安全面や障害者のバリアフリー化計画などを含む、全ての利用者が快適に使えるこ

とを目指すユニバーサルデザインへの取組について、見解をお聞かせください。

次に2点目、オープニングイベントの誘致について質問いたします。

さて、本事業の上位計画の1つである、文部科学省の「スポーツ立国戦略、基本的な考え方」には、1つに「する人・観る人・支える人の重視」と、2つに「連携・協働の推進」のこの2点を基本的な考え方とし、実施すべき5つの重点戦略として、1、ライフステージに応じたスポーツ機会の創造、2、世界で競い合うトップアスリートの育成・強化、3、スポーツ界の連携・協働による「好循環」の創出、4、スポーツ界における透明性や公平・公正性の向上、5、社会全体でスポーツを支える基盤の整備が掲げられています。

そこで、お伺いいたします。

開業まで約2年半となり、市内外から新しい本施設や、躍動するトップアスリートを見に来られる人に向け、新体育館や屋内プールでのオープニングイベントや、こけら落としとなるプロリーグ招聘、国内中央競技団体の大会等を計画されているかと思いますが、予定とその進捗をお聞かせください。

次に3点目、各種大会の実施計画について質問いたします。

開業後、新体育館では、市民レベルや播磨圏域レベルの大会をはじめ、県レベルの大会や全国レベル、プロスポーツ大会の実施が予想され、今後は電子機器、コンピューターやビデオゲームを使う、いわゆるeスポーツの会場利用等も考えられます。

また、新体育館は、市民が気軽に武道に触れ、体力づくりができる施設として柔道場・剣道場・弓道場も併設され、県立武道館との役割分担により、市民が武道を知り、参加し、体力づくりや健康増進のきっかけとなるという点で重要な役割も担うこととなります。

一方、屋内競技用プールは、日本水泳連盟公認の50メートル国内一般プール、通称AA基準として、国体・インターハイ等、日本水泳連盟主催の主要大会に対応できる施設となり、同プールは開業以降、冬場も使用できる通年仕様の50メートルプールとしては県下唯一の施設となり、県内外からの利活用が大いに期待されております。

また近年、兵庫県水泳選手権では、パラリンピックを目指すパラアスリートも健常者とともに同大会に出場し、自

己ベストを目指す姿がスタンダードとなりつつあります。  
そこでお伺いいたします。

本施設開業後、現在総合スポーツ会館等で実施されている本市各協会主催の大会やイベント、県大会から全国大会とのスケジュール調整、プロリーグ、eスポーツ、障害者大会等について、実施計画をお聞かせください。

次に3項目め、運動部活動地域移行と連携について質問いたします。

運動部活動の地域移行と連携は、生徒数の減少や教員の働き方改革、スポーツ指導者や練習場所の確保、様々な課題を抱えながらも、令和5年度から令和7年度までの3年間を目途に改革推進期間とされ、姫路市でも「姫カツ」、姫路市中学生スポーツ・文化芸術活動として、昨年10月に水泳競技がモデル事業で実施されました。

まずは休日の部活動を地域移行させ、進捗状況を検証、その後、平日の地域移行もできるところから取り組むべく、現在全国各所で進められ、本施設完成の令和8年には試行錯誤の段階を経て、本市の取組も確立されていることが予想されます。

そこでお伺いいたします。

本施設や既存の陸上競技場・中央体育館・武道館を活用し、中央公園一体で市内の運動部活動の地域移行・連携の拠点化として、合同練習や強化練習、指導者育成事業も実施できるのではないのでしょうか、見解をお聞かせください。

次に4項目め、屋内プールを利用した水泳授業の民間委託について質問いたします。

他都市で既に進んでいる小中学校の水泳授業民間委託事業は、安全な施設・監視環境の下で授業を実施できるほか、児童・生徒の泳力向上、水質管理など教員の負担軽減、多額の改修維持管理費の削減などのメリットが期待されており、本市でも計画段階であるとお聞きしております。

そこで、お伺いいたします。

本施設屋内プールを利活用した水泳授業の民間委託、及び全市的な今後の計画について、見解をお聞かせください。

次に2問目、里山保全活動についてのうち1項目め、ボランティア活動の推進について質問いたします。

的形ふるさと里山会では、昔の里山を復活させようと、平成20年、2008年に発足以来、地域の活性化と豊かな自然の保護活動を行ってまいりました。

この活動に対し、令和元年には国土緑化推進機構理事長賞を受賞、現在では会員の高齢化が進む一方、20代も入

会し、約30名の会員によって月3回、登山道の草刈りと不用木の伐採、階段の新設や眺望所の整備開拓などのボランティア活動を行っております。

近年では、校外学習などの依頼を受け、こども園の園児とノジギク植え付け体験や、小学生には竹とんぼやぶんぶんゴマ作り、里山と名所巡りなど環境学習体験の指導も行い、その世代を超えてのつながりは地域コミュニティを支える役割も担っております。

昨年末には、ご年輩の方も多数在籍される好古学園大学生97名の方々が、的形の里山をハイキングしながら学ぶ歴史探訪に来られ、同会にてご案内しました。

また近年では、瀬戸内海を望む低山登山やトレイルランニング、パラグライダーなどを楽しむ若者世代がユーチューブやSNS等で配信され、他府県への認知度も上がり、訪れる方が増えてきました。

そこで、お伺いいたします。

住民参加による森林の整備や、地域住民参加による取組とその重要性について、見解をお聞かせください。

また、里山保全是緑の募金などを原資とする交付金を主に活動経費としますが、本市で取り組まれている森林環境譲与税や兵庫県による県民緑税等を活用した、集落に隣接した里山林を整備する、集落周辺森林整備事業での再生整備と獣害対策等を目的とする、住民によるボランティア活動の推進と兼ね合い・結びつきについて見解をお聞かせください。

次に2項目め、イノシシ対策の進捗について質問いたします。

昨年の第3回定例会で、的形地区をはじめ本市におけるイノシシやアライグマなどによる農作物被害と、複数頭のイノシシの度重なる住居地域出没についてお伝えしました。

当局からは、農業被害の防止目的に限定されている国の補助制度に加えて、本市が独自に人の生活圏への侵入防止を目的とした柵の整備の支援制度を新たに創設することについては、事業の応益性を含め整理すべき課題もあることから、近隣市町の対応状況なども勘案して検討と回答いただきました。

同地区では、北部農林事務職員や猟友会による講義や対策協議を度々重ねておりますが、今なお解決策は見出せておりません。

イノシシの繁殖期は12月から2月の約3か月間続き、4

月から6月に出産期を迎えます。

該当地区では自治会とも協力し、ごみが荒らされる前にスチール製のゴミステーションへの付け替えを行うなど、できる対策を打たなければ、年々増え続けるイノシシによる人的被害が懸念されています。

そこでお伺いいたします。

他議員の答弁と重複されますが、市民の安全を守るためにも一定の基準を設け、必要箇所には侵入防止柵や電柵の設置など、本市独自の補助制度を繰り返し提案いたします。

見解をお聞かせください。

次に3問目、LINE公式アカウントの利用状況について、3点質問いたします。

昨年9月の本会議で提案し、翌10月に運用が始まったLINE公式アカウントは、暮らし、子育て・教育、観光イベントなど、市民が個人々に応じ必要とする情報を選択して受け取ることができ、市民アンケートの収集など双方向での利用として動き始めました。

広報ひめじ3月号の見開きでも大きく告知され、今後、より一層市民の利用が増え、重要性も増してくることを考えられます。

そこで1項目め、今朝の時点で1万4,055人の登録者数と増えてきた公式LINEの分析機能から見える利用データの推移など、運営状況と今後の課題についてお聞かせください。

また、LINEを高齢者の方々にご利用いただくことも課題かと考えられ、インターネットの恩恵を受けられない高齢者への情報格差解消のための取組、いわゆるデジタル・ディバイド対策についても併せて見解をお聞かせください。

2項目め、災害時の利活用について質問いたします。

行政の発信するLINE公式アカウントの機能には、平常時は現在の警報・注意報や近隣の避難所情報、ハザードマップなど防災情報の受け取りができ、災害発生時には罹災者の位置情報に合わせた避難行動や避難場所の確認、安否情報の確認等へ切り替えて発信することができます。

また、復旧支援時には、道路陥没など町の不具合の通報を行うことも可能です。

神戸市公式noteによると、能登半島地震で甚大な被害に見舞われた珠洲市へ市職員2人を交代制で派遣し、神戸市役所の広報戦略部約40名の職員が、珠洲市の被災者向けの広報をリモートにて支援されています。

X(旧ツイッター)、インスタグラム、LINEといったSNSの発信が得意な広報戦略部が現地に入り感じたのは、「珠洲市の人たちは65歳以上が51%、ウェブ広報を強化しようとする我々が本当に正しいのか、疑問を抱きながらも。であれば、スマホが苦手な人たちにはチラシや貼り紙で知らせると割り切ればいいのでは。LINEで情報を取りたい人もいますので、そこをカバーできれば十分。とにかく今できることをやろう。」との思いだったそうです。

珠洲市には公式LINEアカウントが既にあり、登録者も震災前に3,000人以上あり、これをうまく使えば被災者に簡単に情報を届けられると、広報戦略本部はLINEを選択。現在までLINE公式アカウントでの情報発信をサポートされています。

LINEへは毎日5件ほど投稿し、被災者が求める情報を探るためメッセージの開封率をチェックし、その中でも炊き出しの情報閲覧は8割を超え、手厚く発信。結果的に登録者数は当初の約3,000人から現在は約7,800人に増えています。

そこで、お伺いいたします。

能登半島地震をはじめ過去の震災等からの教訓も踏まえ、本市で災害が発生した場合の市民への情報発信について、見解をお聞かせください。

次に3項目め、LINE公式アカウントの過去配信分の閲覧について質問いたします。

LINE公式アカウントは通常、登録後のトークに掲載された情報しか見ることができませんが、プッシュ配信ではない投稿機能も併用することで、過去の配信を閲覧できます。

近々廃止されるひめじプラスへは、日々相当量の情報がアップされていますが、やはりフリーズしたり、アプリ自体が落ちます。

そこで、ひめじプラスにアップしている今後の情報とLINE公式アカウントの過去トーク分の重要箇所を投稿機能へも移管し、過去配信分を見られるようにすることを提案いたしますが、ご所見をお聞かせください。

最後に4問目、消防団員の備品の充実について質問いたします。

消防団は、消防本部や消防署と同様、消防組織法に基づき本市の各町村に設置され、地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、

住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。

私も冬の年末火災特別警戒及び消防団巡視に参加しましたが、真冬の消防団詰所の外や車外においても、団員は消防活動服だけで寒さをこらえ、作業をされていました。

聞くところによると、消防団員の防寒着は自主的に作っている分団や持っていない分団などまちまちで、また旧来から活動に羽織るはっぴは胸元も開き、防寒対策にはなりません。

そこで、お伺いいたします。

地域に従事する消防団員へも、消防本部や消防署に勤務する消防署員と同等の防寒着を支給すべきではと考えますが、見解をお聞かせください。

以上で、私の第1問を終わります。

### ○三輪敏之議長

本庄スポーツ担当理事。

### ○本庄哲郎スポーツ担当理事（登壇）

議員ご質問中、私からは1項目め、手柄山スポーツ施設整備運営事業についての1点目及び2点目についてお答えいたします。

まず、1点目のトップアスリート育成についてでございますが、トップアスリートの育成に当たっては、スポーツに始めるきっかけづくりやスポーツに打ち込むための充実した環境づくり、高度な知識・技能による質の高い指導が重要であると認識しております。

議員ご指摘のとおり、特にジュニア世代にとっては、様々なトップスポーツ等を身近に感じ、夢や希望、感動を覚えることによって、トップアスリートを目指すきっかけとなるものと考えております。

本市としましては、ヴィクトリーナ姫路など本市を拠点とするトップチームのホームゲームの開催支援やチームPR及びオリンピックや元プロ選手によるスポーツ教室の開催を実施しております。

また、スポーツに関する様々な分野の講師による市民スポーツ大学講座や、スポーツトレーナーや医師などの講師からけがの予防法などを学ぶスポーツメディカル講習会などを開催しており、各種スポーツ団体の指導者の指導力向上を図っております。

今後もトップアスリートの育成につながるよう、トップチームや本市スポーツ協会等の関係団体との連携を強化し、ジュニア世代がトップアスリートに憧れを抱き、スポ

ーツを始めるきっかけとなるような機会の創出に努めるとともに、指導者の指導力向上を図る講習会などを継続的に開催してまいります。

次に、防災拠点についての役割でございますが、姫路市地域防災計画には、手柄山中央公園は屋外施設収容人員の記載があり、地震や大規模火災時の屋外の緊急避難場所として指定され、公園全体の面積から12万5,000人が一時的に避難できる場所として記載しております。

手柄山中央公園は広場などの公園としての記載となるため屋内施設収容人員は対象外となり、人数の記載はしてありません。

ただし、公園内の屋内施設となる中央体育館などは避難所として指定されているため、屋内施設収容人員の人数を記載しております。

手柄山中央公園の災害時の指針としましては、中播磨地域全体の救援・救護、復旧活動の拠点となる兵庫県の広域防災拠点として位置づけられており、本市においては救援物資等の集積・配送場所となる物資拠頭に位置づけております。

手柄山スポーツ施設の役割と計画につきましては、新体育館のアリーナを本市の水や食料、毛布などの屋内の救援物資の集積場所等として使用し、新体育館から各避難所と支所や出張所など市内15か所の地域防災拠点等への救援物資の配送を考えております。

また、新体育館等の各諸室は、救助部隊等が使用することを想定しております。

さらに、屋内プールにつきましては、災害時の生活に必要な雑用水として利用できるようにするなど、防災機能としての役割を想定しております。

次にスポーツと観光の共存についてでございますが、現在整備中の手柄山スポーツ施設については、世界大会や国内主要大会が開催できる規模や機能を備えており、また、JR新駅の整備に伴い交通利便性が向上することから、各種競技団体の練習会や合宿の誘致はもとより、これまで以上にトップスポーツや大規模大会などの開催が期待できます。

今後も交流人口の拡大や地域経済の活性化を図るため、新たなスポーツ施設をはじめとしたスポーツ資源と世界遺産姫路城や書写山圓教寺など恵まれた観光資源を生かしながら、スポーツツーリズムをより一層推進してまいります。

次に、2点目のユニバーサルデザインへの取組についてでございますが、手柄山スポーツ施設の整備に当たり、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、兵庫県福祉のまちづくり条例を遵守するとともに、障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル等を参考としながら、高齢者、障害者等の「する・みる」スポーツに対応した施設とすることとしております。

また、施設の設計を進める中で、ユニバーサルデザインワークショップをこれまで3回実施し、学識経験者の意見収集や障害者団体へのヒアリング、障害者団体とともに他都市スポーツ施設の視察等を行い設計内容に反映するなど、施設整備に生かしております。

今後、整備の進捗に沿ってワークショップを開催し、ユニバーサルデザインの精査・適正化を図る予定としております。

次にオープニングイベントの誘致についてでございますが、新たなスポーツ施設のオープニングイベントにつきましては、美津濃株式会社等を含めた事業者から提案のありました、ヴィクトリーナ姫路のエキシビジョンマッチや世界大会等を経験したアスリートによるスポーツクリニックの実施等を予定しており、実施に向けた協議を事業者と進めているところでございます。

今後、オープニングイベントにつきましては、本事業の事業者からの提案の履行を基本に、美津濃株式会社等の運営企業や各種競技団体と協力、連携しながら確実に実施してまいりたいと考えております。

次に各種大会の実施計画についてでございますが、現在、本市スポーツ施設における各種大会の開催会場の確保につきましては、使用日の2か月前から施設を予約できることとしております。

一方で、周知や準備が2か月前の一般予約では間に合わない県大会や市民大会など一定規模の大会や特別なイベントにつきましては、確実に開催会場を確保することから、各種競技団体が事前に協議し、スケジュール調整を行っております。

新たなスポーツ施設の開業後は、各種競技団体主催大会からプロスポーツ、eスポーツなどのイベント、障害者スポーツ大会など今まで以上に大規模な大会やイベントの開催が見込まれます。

基本的には、現在と同様に、事前協議による方法でスケジュール調整を行う予定としておりますが、従来どおりの

スケジュール調整方法では開催できない大規模大会もあることが予想されるため、何らかの方策を検討する必要があると考えております。

開業後における大規模大会の実施計画につきましては、バレーボールやバスケットボールなどのプロリーグの公式戦が計画されているほか、競技団体から提案をいただいている案件もあり、今後、各種競技団体や美津濃株式会社等の運営企業と協議しながら、施設を効果的に活用できるよう取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

### ○三輪敏之議長

西田教育長。

### ○西田耕太郎教育長（登壇）

私からは、1項目めの3点目及び4点目についてお答えいたします。

まず、3点目についてでございますが、本市が新たな地域クラブ活動として実施を目指す「姫カツ」において、学校施設だけでなく、議員ご指摘のとおり、建設中の手柄山スポーツ施設や既存の施設も活用することにより、活動内容の充実や活動拠点として生徒及び指導者同士の交流が図れるよう、今後、観光経済局や指定管理者等と連携していきたいと考えております。

次に4点目についてでございますが、今後は、老朽化度や学校規模等の状況を総合的に勘案して、建設中の手柄山スポーツ施設を含めた民間及び市体育施設の利用を進めていく予定でございます。

なお、令和6年度は、市立小学校3校で民間及び市体育施設を利用した水泳授業の民間委託を実施する予定でございます。

以上でございます。

### ○三輪敏之議長

福田農林水産環境局長。

### ○福田宏二郎農林水産環境局長（登壇）

2項目めについてお答えいたします。

1点目のボランティア活動の推進についてでございますが、本市におきましては、姫路市ふるさと百年の森構想を策定し、森づくりを市民全体の取組と考え、長期的な視点に立った森林整備等を実施しております。

森林整備に当たりましては、森林所有者だけでなく、森林組合等林業事業者や民間事業者、ボランティア団体など、市民が参画し協働しながら森づくりを進めていくことが

重要であると認識しております。

形の形ふるさと里山会をはじめ地域住民による取組に対しましては、ボランティア活動の励みとしていただけるよう、本市が実施する林業体験イベント等において感謝状を贈呈しております。

本市における森林環境譲与税を活用した森林整備につきましては、集落周辺森林整備事業として、防災の観点から民家周辺における危険木の伐採や間伐等を実施しております。

当該事業につきましては、集落に隣接した里山林の整備を行うことから、バッファゾーンとして野生動物の出没抑制にも寄与しております。

また、県では県民緑税事業を活用し、広範囲にわたる獣害柵周辺の森林整備を実施していることから、県とも連携しながら必要な対策を講じてまいります。

2点目のイノシシ対策の進捗についてでございますが、本市では、農業被害の防止を目的として、侵入防止柵の整備や有害鳥獣の捕獲、自治会等への捕獲おりの貸出しのほか、学習会の開催及び捕獲従事者の確保など、総合的な鳥獣被害防止対策を進めております。

侵入防止柵の整備につきましては、これまで国庫補助事業の対象に限定しておりましたが、令和6年度より新たに市単独事業として整備できるよう既存事業を拡充いたします。

当該事業につきましては、地域の要望に対して柔軟に対応できるよう制度を設計し運用してまいりたいと考えております。

以上でございます。

### ○三輪敏之議長

原田デジタル戦略本部副本部長。

### ○原田 学デジタル戦略本部副本部長（登壇）

私からは、3項目めの1点目と3点目についてお答えいたします。

1点目の利用状況についてでございますが、姫路市公式LINEアカウントを令和5年10月に運用を開始して以降、友だち数は10月末時点で1,300人、12月末で6,800人、本今朝現在で議員お示しのおり1万4,000人を超えており、順調に友だち数を伸ばしております。

特に公式LINEの特集を掲載した広報ひめじ3月号が配布されました最近の1週間では、約4,000人の増となっております。

公式LINEを通じて配信する情報につきましても、定期的に配信される情報を確立するなど増加させております。

より多くの情報が発信されるようになる中、市民の皆様がそれぞれ知りたい情報を受け取ることができるよう、情報を受け取るためのセグメントを運用開始直後の8項目から17項目に増す改善も行っております。

市民の皆様へ効率的・効果的に情報を発信していくに当たり、公式LINEの認知度のさらなる向上、友だち登録の獲得が課題であると認識しております。

そのため、先ほど述べました広報ひめじへの掲載や映画上映前に放映されるとびっくす姫路を通じて、市民の皆様への案内を行ってまいります。

その他、公式LINEを利用している事業のポスターやチラシにもQRコードを掲載するなど、LINEの利用を案内しております。

また、令和6年度には、給付申請などの申請手続やオンライン決済機能を公式LINEに組み込んでいくことを検討しております。

次に高齢者へのデジタル・ディバイド対策についてでございますが、曜日や場所を固定し予約を不要とすることで気軽に相談ができるスマホサロン、地域活動の場など高齢者が希望する場所に出張して行うスマホ教室、対面によるマンツーマンで教えるよろず相談など、高齢者の方々が自分にあった方法を選択してご利用いただける相談体制を整える予定としております。

これら相談の場や、新たに開始する市政出前講座「使ってみよう！姫路市のデジタルサービス」において、公式LINEの登録や利用方法についても案内し、情報格差の解消に取り組んでまいりたいと考えております。

3点目のLINE公式アカウントの過去配信分の閲覧方法についてでございますが、議員ご指摘のとおり、LINE機能の特性といたしまして、新しく友だち登録をいただいた方は、過去にトークで配信されたものは閲覧することはできません。

一方、議員ご提案のとおり、投稿機能へトークで配信した内容を投稿することにより、新しく友だちとなられた方でも、過去のトークの内容を閲覧することが可能となります。

現在、公式LINEでは様々な情報をタイムリーに市民の皆様へ配信しております。発信の内容により、トークと

投稿機能をどのように使い分け、効率的・効果的な発信を行っていくか、今後も検討してまいります。

姫路市公式LINEが市民の皆様に親しまれ、多くの方々に利用されるサービスとなるよう、魅力ある情報の配信について努めてまいります。

以上でございます。

○三輪敏之議長

名村防災審議監。

○名村哲哉防災審議監（登壇）

私からは、3項目めの2点目についてお答えいたします。

本市における、災害時の市民の皆様への情報発信につきましては、地域防災計画等に基づき、発災直後は災害の発生や避難等の人命に関する情報を、一定期間経過後はライフラインや食料、物資等の生活支援に関する情報などを、状況に応じて提供することとしております。

その際には、市民の皆様への情報発信を的確に行うため、防災行政無線をはじめ、ひめじ防災ネットや全国避難所ガイド、戸別受信機、FM GENKI、WINK等を活用し、多重・多様な手法で情報伝達を図ってまいります。

LINEによる情報発信につきましては、利用者が多数存在し、操作が比較的簡単であるとともに、災害時にも広範かつ瞬時に情報を伝達することができるなど有効な情報伝達手段の1つであると認識しております。

今後とも、災害時において、市民の皆様への安全・安心の確保とニーズに応じた情報を発信するために、LINEのさらなる有効活用に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○三輪敏之議長

松本消防局長。

○松本佳久消防局長（登壇）

私からは4項目めについてお答えいたします。

消防団員への防寒具の支給についてでございますが、団員への装備、資機材の配備につきましては、災害現場で安全確実に活動を行っていただけるよう、入団時に夏用、冬用の活動服をはじめ、救助用の安全靴、ヘルメット、雨合羽などを団員個人に貸与し、また共用資機材として、防火衣やライフジャケット、防塵メガネなどを各消防分団に配備しております。

各地域において、献身的に活動しておられる消防団に対しましては、報酬や手当の増額、また交付金の継続的な予算確保など、団員の皆さんが安全に活動できるよう、切れ

目のない様々な処遇改善を図ってまいりました。

活動服や安全靴などの個人装備品の更新につきましては、毎年度、各分団に交付しております交付金を活用して購入するなど、分団ごとに対応していただいておりますが、議員ご提案の防寒着につきましても、必要性は十分認識しておりますが、同様の取扱いをお願いしているところでございます。

今後も、個人装備品の充実など、団員の皆さんのご労苦にお応えできるよう、さらなる処遇改善をはじめ、活動しやすい環境整備に努めてまいります。

以上でございます。

○三輪敏之議長

以上で、嶋谷秀樹議員の質疑を終了します。